

# ヨゼフ寮だより

令和4年8月 第93号

社会福祉法人ヨハネ会 障害者支援施設ヨゼフ寮

〒651-1622 神戸市北区淡河町神田 382-27

TEL(078)958-0109

発行責任者:池田直美

「オール フォー ワン ワン フォー オール」  
(みんな一つの目的のために、みんなのために)

副施設長 川本 美紀

今年の梅雨は、雨量も少なくあっという間に終わってしまい、今まさに“夏”を体感しています。

ヨゼフ寮の35周年記念イベントを無事終え、ふと自分自身がなぜ「福祉」のお仕事を選択したのかを振り返ってみました。偶然障害のある方と関わる機会があり、当時自分が思い描いていたサポートが「困っていたら手を差し伸べましょう」でしたが、実際はすべてをサポートするのではなく個々の能力に合わせて支援をしていくというものでした。それから「この方は何が好きなのかな?」「なぜ落ち着くことができていないのかな?」「どんな風に暮らしたいのかな?」と考えていくうちに深く学んでいきたいと思い始め、入職しました。

さて、みなさんは「障害者」という言葉から、どんなイメージを浮かべますか? アメリカでは、障害のある人を「障害者(ビーイング)」ではなく「障害のある人(ハビング)」と捉える傾向があるそうです。生まれる前から障害を伴っている人もいれば事故等で後から障害を持つ人もいます。でも同じ一人の人間に変わりはないのです。2016年4月に施行された「障害者差別解消法」で保証しているのは、障害者だから配慮されるべきではなく、障害があっても困っていることに配慮や支援を提供して、障害がある人もない人と同じように過ごせるように、社会に参加できるようにしようということではないかと思います。例えば他の人と同じように列に並ぶことができないから参加をあきらめるのではなく、おだやかに待ち時間を過ごせるように工夫すること、「合理的配慮」をして、その人が困っていることを解消していくことではないかと考えます。

昭和～平成～令和を経て障害のある方の制度や施策が変わる中で、利用者の皆さんへの支援をどのように変化(工夫)できているのでしょうか。

過去の対応も基本として踏まえながら、利用者のみなさんの年齢や心身の状況に合わせた対応を考えていくことが私たち支援者の役割ではないでしょうか?長年、施設での仕事をしていると、いつの間にか利用者のみなさんの変化や気持ちに気づきにくい状況になってしまいます。そんな時こそ気持ちを新たに、法人理念である「ホスピタリティ」のあり方に立ち返り、「誰のための支援なのか」、目標に向かって職員が自主的に考えを深めていく必要があると考えています。

そして、利用者のみなさんに「ヨゼフで生活ができてよかった。」と感じてもらえるよう、職員一丸となって努力していきたいと思っておりますので、ご支援のほどよろしく願いいたします。

まだまだ、新型コロナウイルス感染症対策は続きますが、合わせてご協力のほどお願いいたします。

## 行事・活動報告

≪ 4月 ≫

23日 イースターの集い

≪ 5月 ≫

3日～5日 春季期間

16日 ヨゼフカフェ

17日、24日、27日 コロナワクチン接種

20日 保健衛生指導(ヨゼフ健康デー)

26日 避難訓練

28日 聖母祭

≪ 6月 ≫

8日 祈りの集い

15日 運動会

### 「春季休暇期間」

N・K

ゴールデンウィークに鯉のぼり作りを行いました。利用者のみなさんの手形をウロコに見立てて、ペイントをしました。赤色の鯉、黄色の鯉、青色の鯉を作りグラウンドにある掲揚台で上げました。

いろいろな色を混ぜることで、ヨゼフ寮にしかないオリジナルの鯉のぼりを作成することができました。掲揚台に上げた時に、「泳いでいるね!」と嬉しそうに話される利用者の方もおられました。

また、端午の節句の日に菖蒲を湯船に入れ入浴しました。菖蒲を頭に巻いたり、菖蒲の香りを楽しんでいる利用者の方もいました。

季節のものにふれることで、どことなく利用者のみなさんの表情がいつも以上に柔らかい印象を受けました。

### 「ヨゼフカフェ」

M・F

5月16日にヨゼフカフェを開催し、オリジナルのヨーグルトデザートを作りました。器にヨーグルトを盛り付けたり、季節のフルーツをトッピングしたり、一生懸命な利用者のみなさんの顔が印象的でした。ヨゼフ寮の間食でも定期的にヨーグルトが出ます。ヨーグルトには腸のぜん動運動を促したり、便秘を解消させたり、肌の調子を整えたり様々な効果があります。ヨーグルトが好きな利用者の方も多く、あっという間に完食されます。

これからの季節、引き続き健康に気をつけて元気いっぱいにご過ごしていきましょう!

## 「聖母祭について」

O・Y

5月はマリア様の月です。ヨゼフ寮では毎年5月の最後の週の土曜日に聖母祭を祝って来ました。今年も5月28日鈴蘭台教会の安旻祐神父様の司式で御ミサを挙げて頂き、聖母マリア様に感謝を捧げました。安旻祐神父様からは、『マリア様はイエス様の母であると同時に私達皆の母でもあられ、いつも私達の事を温かい目で見守ってくださっている。だからどんな時でも信頼し、安心してください』とお話しがありました。御ミサの後は紙芝居『マリアとヨゼフ』を鑑賞し、どんな時でも神様を信頼して救い主の母となられたマリア様の生涯に想いを馳せました。ヨゼフ寮の玄関を入った先にマリア像があります。今年4月にヨゼフ寮開設35周年記念をお祝いしましたが、開設以来、常にこの場所で私達を見守ってくださっていることに改めて感謝の念を強くした聖母祭の一日でした。

## 「祈りの集い」について

O・Y

ヨゼフ寮では毎月第2水曜日に『祈りの集い』を行っています。4年前からはカトリック信者の方を招いて開催し、皆で聖歌を歌い、聖書の朗読を聴き、その内容を私たちの生活に関連した形で分かり易くお話しして頂いています。以前は施設内にある修道院の聖堂で毎週土曜日に行っていました。現在は寮内のホールで毎月1回開催していますが、その時間は皆が心をひとつにして神様と向き合い、お互いのことを思いやる貴重な時間となっています。聖歌の伴奏は開設当初より、利用者の大竹由利子さんがピアノ演奏してくださっています。利用者と職員共にピアノに合わせて聖歌を歌っていると、温かい雰囲気にも包まれ居心地の良い空間が広がっていくように感じます。これからも心のオアシスとして、『祈りの集い』の時間を大切にしていきたいと思います。

## 「運動会」

T・M

6月15日にヨゼフ寮で運動会をしました。

あいにくの天候であったため、昨年同様ホールでの開催となりました。これまでは、全棟(通所・マリエンハイム含む)参加型で開催していましたが、これまでと開催方法を少し変更しました。館内放送にて、施設長より開会の言葉、各棟でのラジオ体操を行い、午前の部は、C・D棟利用者の方と通所・マリエンハイムの利用者の方に参加してもらい、玉入れ・借り物競争・デカパン競争をしました。午後の部では、A・B棟利用者の方に参加してもらい玉入れ・デカパン競争をしました。

どの競技も全員型の競技であり、取り組む表情から皆さんの懸命さがひしひしと伝わってきました。

また、自分が競技に参加していなくても、他の方に声援を送ったり、拍手をしたりとても和やかな雰囲気で開催できました。定期的に水分を摂取し、休憩も挟みながら熱中症対策もしました。また、ホール内の換気を行い、感染対策もしっかり行いました。

運動会後は、参加賞として珈琲を皆さんに配り、間食の手作りシフォンケーキと一緒に召し上がってもらいました。競技に参加した後の甘いスーツはとても美味しいと話される利用者の方もいました。皆さんニコニコしながら召し上がっていました。

来年も皆さんの元気いっぱいの姿を楽しみに運動会の開催を心待ちにしたいと思えます。

## 新任職員紹介

### 生活支援員 B・T

始めまして。7月1日よりヨゼフ寮で働かせて頂いているB・Tです。

以前はアミューズメント、物流や造園など福祉や介護とは畑違いの業種で働いていました。分からない事ばかりでご迷惑をおかけすることがあると思います。ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

この文章を書いている時点で働き始めて十日が経過しました。

関わりのある男性入所者の顔と特徴がある程度把握出来て来た所です。

先輩職員の方々が業務の流れや注意点を丁寧に教えて下さるので、じっくり取り組むことが出来、感謝しています。

利用者さんへの誘導の仕方や声掛けなどいろいろなアプローチがあり、とても勉強になります。

早く業務を覚えて一人で任せていただけるよう頑張っていきますので宜しくお願い致します。

## 生活支援員 Y・M

7月からお世話になります。Yです。

福祉関係の仕事は、ど素人ではありますが利用者様、スタッフの皆様にご迷惑をかけない様に足を引っばらない様に仕事をガンバリたいと思うので宜しくお願いいたします。